

さくら清修高 同窓会会報

第7号 編集人 和氣久一 事務局 028(682)4500 印刷 (株)ダイサン

自ら考えて 行動しよう

同窓会会長 和氣 久一



この三年間を振り返ってみると、随分新型コロナウイルスの流行に振り回されたように思います。それぞれの体質や持病によって感染対策を講じる必要性はありますが、ここへきて世界的にもコロナウイルスとの共存へ舵を切る方向に動き出しています。

しかし、どんな時代においても自ら考えて行動することが大切であると考えます。自分はどう考えるのか。自分にとっての幸福とは何か。どういう未来を創造したいのか。例えば、最近の各種選挙を見ても投票率は五十%を切っています。政治家や専門家が決めてそれを皆が盲目的に従ったり、守ったりすることだけでは、自治意識は育たないと思うのです。私たちは人間は社会的な生き物です。個性

を保ちながら、「自分を取り巻く社会はこうあってほしい」、「自分の子どもたちにはこういう社会を残したい」と、一人ひとりの考えが未来を創造すると考えます。

こうして自分の考えを携えて、意見の異なる人と十分に対話することは、別の側面からの考察に繋がるので、考えが深化します。あるいは世界平和の観点からも対話は非常に需要です。相手にも主張があるはずですから。

現代社会は加速度的に進歩して、行動を迫られる局面も多いです。しかしその速度に振り回されず、まずは一度立ち止まって自分の考えを明らかにすること。そうやって一步一步着実に未来を構築したい、と考える今日この頃です。

最後になりますが、今後とも同窓の皆様のご協力をどうぞよろしくお願い致します。

(氏家高等学校第五回卒)



▲入学式



▲球技大会



▲体育祭



▲創立記念式典・芸術鑑賞会



▲桜花祭



▲体育祭



▲修学旅行【熊本城】



▲修学旅行【長崎平和公園】



▲大賀蓮

「つなぐ」この意味



校長 渡辺 徹

東京オリンピック2020、大会十五日目の八月六日に行われた陸上男子四〇〇メートルリレー決勝で、日本チームは第走者から第ニ走者バトンが渡らず、まさかの途中棄権となりました。バトンが届かなかった距離は五〇センチ、時間にして〇・〇五秒の狂いでした。日本チームは予選でマークしたタイムが決勝に出場したチームのなかで最も遅かったため、バトンパスを差を縮めるギリギリの勝負に挑んだ、このことです。

私は「つなぐ」この意味、そして、難しさをあらためて感じました。

コロナ禍も二年目に入り、令和二年度、三年度は同窓会関連の行事はほとんど実施できませんでした。令和四年一月十三日に同窓会役員会を開催し、令和四年度は感染状況をみながらも、総会ははじめ各同窓会行事をできる限り開催していく方向を確認しました。そして、六月十八日に令和四年度同窓会総会、八月十日に第二回十年会(二期生)、八月十三日に第三回十年会(三期生)をそれぞれ開催することができました。正直、参加人数はコロナ以前の状況に比べると少なかつたかもしれせん。しかし、「十年会」に参加してくれた同窓生と当時のクラス担任の先生方は会が終わっても談笑を続け、「見せてもらってもいいですか」と、校舎内を懐かしそうに見て回っていました。「十年会」が開催された八月は「とちぎB.A・5対策強化宣言」中であり、「十年会」後の各クラス会までは開催できませんでしたが、コ

ロナ禍で中止となっていた「十年会」を三年ぶりに復活させることができた事は同窓会にとって新たな一歩だったと思います。来年度(令和五年度)には、第四期生と第五期生の「十年会」をそれぞれ開催し、コロナ禍で開催できなかったぶんの「十年会」を追いつかせる予定です。

同窓会が母校と同窓生を「つなぐ」のに、日本の陸上男子リレーチームが東京オリンピック2020で挑んだようなギリギリの勝負は必要ありません。状況にあわせ、柔軟く、地道に、着実に、バトンをつないでいくことが大切です。

学校も同じです。この二年間、コロナ禍で中止にせざるを得なかった学校祭、桜花祭を家族に限った一般公開ではあったものの、今年度は三年ぶりに開催できました。それ以外の行事も今年度はほぼ実施することができ、先輩から後輩へと行事を「つなぐ」ことができた意味は非常に大きいと思います。コロナ禍で、たとえ何かを失ったとしても、ひたむきに自らの高校生活に取り組む生徒達と懸命に努力してくれる教職員によって、本校の歩みは着実につながれています。

『糸』という中島みゆきの歌の「節に」縦の糸はあなた、横の糸はわたし」という詞があります。縦の糸は母校、横の糸は同窓生。縦と横の糸を織るのが同窓会。織りなす布がすべてのさくら清修高等学校。関係者を柔らかく暖かく包み込んで、母校をさらに発展させ、同窓生の人生を豊かにしてくれる。そのような、さくら清修高等学校同窓会であって欲しいと切に願っています。

同窓会ならびに同窓生の皆様、今後とも母校さくら清修高等学校と後輩生徒(達)のため、これからも「層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

現在の大学生活



宇都宮大学一年 柏 愛華

私は現在、宇都宮大学共同教育学部特別支援教育分野で大学生活を送っています。大学生生活はとても充実したもので、一日があつという間に過ぎていきます。この頃テレビやインターネットなどで受験に関わる話題を目にするが増えてきました。それらを見るたびに、年頃は自分が受験生と呼ばれていたということを思い出し、懐かしい気持ちになります。毎日ひたすら勉強と向き合う生活は辛いものでしたが、当時の努力が自分の自信になっていると感じます。高校生の皆さんは、日々の授業や部活動、学校行事などで忙しい毎日を送っていると思います。高校での日常を充実させつつ、自分の進路についてよく考えながら、未来につながる有意義な学校生活を送ってほしいと思います。

ここでは、私の大学生活について話したいと思います。大学での生活は、一言でいうと(自由)です。服装や髪形、髪色も自由。受ける授業も自由。時間割によっては学校へ行く時間も自由です。大学では、時間割を自分で組むことができます。卒業をするために受けなければいけない授業は決まっていますが、それ以外の授業は自分が受けたい授業を受けることができます。反対に言えば、卒業するために必要な授業を自分自身で把握し、受ける必要があるという事です。高校までは、時間割の通りに授業を受けていけば卒業できますが、大学はそうではありません。大学には多くの学生がいるため、先生は学生の時間割の全てを把握してはいけません。学生の決めた時間割に口を出すこともありません。大学の生活は自由ではあり

ますが、そこには責任も伴うという事です。大学生になり、自分の責任は自分で取らなければいけないと思うことが増えました。先ほど述べた授業に関することはもちろん、自分の予定を自分で管理したり、お金の使い方を自分で考えたりしなければなりません。これらのことで失敗をしても、誰のせいにもできないのです。成人となった今、未来の自分を後悔させないためにも、自分の行動(二つ)に気を遣うようになりなりました。

また、大学生活では多くの人と出会うことができます。キャンパス内には、自分が所属している学部の学生だけでなく、様々な学部の学生がいます。サークルや部活動に所属すれば、同じ学部の学生や他学部の学生に限らず、学年の違う先輩や後輩との関わりも生まれます。アルバイトを始めれば、他大学の学生や年代の違う人も出会うことができます。私は現在、学校祭実行委員会に所属しています。十月に行われた学校祭に向けた準備や当日の運営を行いました。《学校祭の成功》という一つの目標に向けて、先輩や同学年の学生と協力し合う経験は、私にとってかけがえのない思い出となりました。来年度からは一年生になり、先輩となるため、より責任感を持って活動に取り組みたいと考えています。私が、大学生活で多くの人と関わるなかで大切だと感じたことは、《積極性を持つこと》です。友人をつくりたいと思っても、自分から話しかけなければつくることはできません。授業でディスカッションを行う際には、人が話しかけてくれるのを待つていては話し合いを進めることができません。大学生活では、高校までの先生のように、自分の為になんでもしてくれるような人は多くありません。何もしなくても助けてもらえるようなことはないので、大学で八か月ほど過ごしてみても、まずは自分から積極的に行動する必要があると実感しました。

次に、大学の授業について話したい

と思います。大学の授業では、(BYOD (Bring Your Own Device))が導入されています。(BYOD)を日本語に訳すと、「自分のデバイスを持ち込む」という意味です。授業の際に学生は、それぞれ自分自身のパソコンやタブレットなどのデバイスを持ち込みます。それぞれのデバイスで板書を取ったり、時にはZoomを用いたオンライン授業も行われたりします。入学当初は、小学校から高校までの授業風景との違いに戸惑っていたことをよく覚えています。また、私が通っている宇都宮大学共同教育学部では、名前の通り群馬大学共同教育学部との斉授業が行われています。双方向遠隔メディアシステムを用いて、群馬大学の教授による授業を宇都宮で受けたたり、宇都宮大学で行われる授業を群馬大学の学生が受けたたりすることができます。群馬大学の学生と直接関わるという機会はまだありませんが、授業でのディスカッションやグループワークを通して関わる機会が多々あります。自分とは違う場所にいる学生と関わることで、意見交換するといった経験は、他の学校ではあまりすることができない貴重なものではないかと思っています。

大学での生活は本当に楽しいです。日々の授業では、自分が学びたかった教育について学ぶことができている。教科の指導法や、教育そのものについて学ぶ授業もあります。授業を通じて、毎日様々な価値観を得ることができています。また、友人と支えあひながら授業を受けたり課題をこなしたりする日常はかけがえのないものです。私は、自分の選んだ進路にとっても満足しています。高校生の皆さんにも、それぞれの進路があると思います。自分の進路に後悔のないよう、今からたくさん悩みながら決断をしてみてください。皆さん自身が選んだ進路での生活がより充実したものになることを願っています。

(さくら清修高等学校第十四回卒

本校生の活躍

- 陸上競技部
 - 第68回栃木県陸上競技春季大会
 - 女子400mH 第3位 鷹簗紗英
 - 女子100mH 第5位 鷹簗紗英
 - 女子走り高跳び 第6位 田中琉唯
 - 女子走り幅跳び 第7位 野中ニッコル
 - 男子4×100mR 第7位 田代康介
 - 男子4×100mR 第7位 森山結斗
 - 第63回栃木県高等学校総合体育大会陸上競技
 - 男子100m 第2位 安済大起
 - 男子4×100mR 第3位 棚瀬朝斗
 - 男子4×100mR 第3位 川和優也
 - 男子4×100mR 第3位 田代康介
 - 女子400mH 第6位 鷹簗紗英
 - 女子走り高跳び 第2位 田中琉唯
 - 女子走り幅跳び 第6位 野中ニッコル
 - 女子7種競技 第3位 高森優萌
 - 栃木県U18/U16陸上競技記録会
 - U18女子100m 第1位 久郷和菜
 - U16女子走高跳 第4位 田中琉唯
 - U18女子100mYH 第5位 高森優萌
 - U18女子100m 第4位 長嶋千夏
 - U18女子砲丸投 第7位 長嶋千夏
 - U18女子走幅跳 第8位 諸橋空
 - U18男子100m 第1位 安済大起
 - U16男子100m 第6位 藤田駿
 - U18男子4×100mR 第3位 川和優也
 - 棚瀬朝斗
 - 安済大起 猪又司
 - 令和4年度関東高等学校陸上競技大会
 - 北関東女子7種競技 出場 高森優萌
 - 北関東女子砲盤投 出場 高森優萌
 - 北関東女子走高跳 出場 野中ニッコル
 - 北関東女子走幅跳 出場 野中ニッコル
 - 北関東男子400mH 出場 鷹簗紗英
 - 北関東男子100m 出場 安済大起
 - 北関東男子4×100mR 出場 棚瀬朝斗
 - 北関東男子4×100mR 出場 川和優也
 - 第93回栃木県陸上競技選手権大会
 - 1部女子砲盤投 8位 高森優萌
 - 1部男子4×100mR 3位 川和優也
 - 棚瀬朝斗
 - 安済大起
 - 第77回国民体育大会陸上競技栃木県予選会兼国体予選記録会
 - 少年女子A 100mH 1位 高森優萌
 - 少年女子共通三段跳 4位 阿部望叶
 - 少年男子A 100mH 1位 長嶋千夏
 - 少年男子B 100mH 3位 安済大起
 - 少年男子A 100m 第4位 棚瀬朝斗
 - U16女子走幅跳 8位 諸橋空
 - 第95回関東陸上競技選手権大会
 - 女子砲盤投 出場 高森優萌
 - 女子7種競技 出場 高森優萌
 - 男子4×100mR 出場 川和優也
 - 令和4年度栃木県高等学校総合体育大会
 - 男子100m 第4位 森山結斗
 - 男子200m 第3位 森山結斗
 - 男子4×100mR 第3位 川和優也
 - 藤田駿 森山結斗 猪又司

- 女子100mH 第3位 高森優萌
- 女子4×100mR 第7位 市川結羽
- 阿部望叶 諸橋空 金留ひより
- 女子走り幅跳 第7位 高森優萌
- 女子三段跳 第3位 長嶋千夏
- 女子砲盤投 第6位 阿部望叶
- 第26回関東高等学校選抜新人陸上競技選手権大会
 - 男子200m 出場 森山結斗
 - 男子4×100mR 出場 川和優也
 - 山結斗 猪又司 藤田駿
 - 女子100mH 出場 高森優萌
 - 女子三段跳 出場 阿部望叶
- 野球部
 - 第13回栃木県高等学校野球連盟1年生野球大会
 - 第3位
 - 男子バスケットボール部
 - 県高校総体兼関東高校バスケットボール選手権大会県予選会
 - 1回戦
 - 全国高校総体バスケットボール競技県予選会
 - 4回戦(24位)
 - U18バスケットボールリーグ戦Cブロック3勝3敗
 - 全国高等学校バスケットボール選手権大会栃木県予選会
 - 2回戦
 - 県高校新人大会兼関東高校新人大会県予選会
 - 1回戦

- 令和4年度全国高等学校総合体育大会バレーボール競技栃木県予選会
 - 1回戦
 - 令和4年度全日本バレーボール高等学校選手権大会栃木県代表決定戦
 - 3回戦 ベスト20
 - 令和4年度栃木県高体連北部支部優秀選手(バレーボール)
 - 阿久津津菜
 - 女子ソフトテニス部
 - 令和4年度栃木県高体連北部支部総体ソフトテニス大会
 - 個人2回戦
 - 令和4年度栃木県高体連全国高校総体ソフトテニス大会
 - 個人2回戦
 - 令和4年度栃木県高体連北部支部総体ソフトテニス大会
 - 個人2回戦
 - 令和4年度栃木県高体連北部支部優秀選手権大会
 - 個人4回戦
 - 令和4年度全日本高等学校ソフトテニス選手権大会栃木県予選会
 - 個人3回戦
 - 全日本ソフトテニス選手権栃木県予選大会
 - 個人2回戦
 - 令和4年度ソフトテニス県新人大会
 - 個人2回戦

- 卓球部
 - 第72回関東高等学校卓球大会栃木県予選会
 - 男子団体出場
 - 女子団体出場
 - 男子シングルス・ダブルス 出場
 - 女子シングルス・ダブルス 出場
 - 第91回全国高等学校卓球選手権大会栃木県予選
 - 男子団体 ベスト16
 - 女子団体 出場
 - 男子シングルス・ダブルス 出場
 - 女子シングルス・ダブルス 出場
 - 水泳部
 - 第63回栃木県高等学校総合体育大会水泳競技大会
 - 200m平泳ぎ第3位 吉澤純奈
 - 第73回関東高等学校水泳競技大会栃木県予選会
 - 100m平泳ぎ第3位 吉澤純奈
 - 200m平泳ぎ第3位 吉澤純奈
 - ソフトボール部
 - 関東公立大会
 - 3位トナメント準優勝
 - 県新人
 - 第3位
 - ダンス部
 - 令和4年度栃木県総合体育大会ダンスコンクール兼第34回全日本高校・大学ダンスコンクールファイナル県予選会
 - 創作発表部門最優秀賞
 - 令和4年度第14回栃木県高等学校体育連盟ダンス新人大会
 - 参加発表部門最優秀賞
 - 令和4年度栃木県高体連優秀選手(ダンス)
 - 阿久津珠美 市川梨奈 黒尾のか
 - 令和4年度栃木県高体連北部支部優秀選手(ダンス)
 - 演習賞 栗田采奈 富川愛莉
 - 柔道部
 - 全国高等学校総合体育大会柔道競技栃木県予選会
 - 個人1回戦 石田 漱 蟹江なつみ
 - 弓道部
 - 第41回関東弓道個人選手権大会
 - 出場 増淵和哉
 - 剣道部
 - 第69回全国高等学校剣道大会県予選会
 - 女子個人ベスト16 篠田帆陽
 - 吹奏楽部
 - 令和4年度第64回栃木県吹奏楽コンクール
 - 銀賞
 - 令和4年度栃木県アンサンブルコンテスト出場
 - 銅賞 熊谷花音 高野真成美 白井希 璃 高瀬莉桜 小島芹香 須藤心結

- 合唱部
 - 第30回栃木県ヴォーカルアンサンブルコンテスト
 - 銀賞
- 箏曲部
 - 令和4年度栃木県高文連春季発表会優良賞
- 美術部
 - 第31回全国高等学校漫画選抜大会(まんが甲子園)
 - 本選大会出場 内山 和 長嶋夏乃
 - 第76回栃木県芸術祭洋画部門
 - 入選 亀井果歩
 - 第65回栃木県高校美術展絵画の部
 - 特別賞 亀井果歩
 - 書道部
 - 第46回栃木県高等学校書道展
 - 佳作 森ひかり
 - 令和4年度第24回栃木県学校教育書写道作品展
 - 条幅Dの部 金賞 森ひかり
 - 半紙の部 金賞 鈴木静也
 - 第74回栃木県書道中央展
 - 金賞 鈴木静也
 - 放送部
 - 栃高文連放送部会第44回放送コンテンツ兼第69回NHK杯全国高校放送コンテスト栃木県予選
 - 参加
 - ビジネス研究部
 - 令和4年度統計クラブ栃木県コンクール入選3席(栃木県知事表彰) 猪瀬南海 田嶋ゆあ
 - 令和4年度統計クラブ栃木県コンクール佳作(栃木県知事表彰) 田嶋ゆあ 猪瀬南海
 - 令和4年度統計クラブ栃木県コンクール奨励賞(県教育長表彰) 増田紗英 渡辺琳子 吉成音響 猪瀬南海 田嶋ゆあ 本宮志優 伊藤 颯
 - 個人(音楽)
 - 第45回栃木県学生音楽コンクール
 - 声楽部門 金賞 風間新菜
 - 第45回栃木県学生音楽コンクール本選会
 - 声楽部門 第2位 風間新菜
 - 個人(自転車競技トリアス)
 - 第11回全日本トリアス選手権大会inn小諸
 - 女子エリート 優勝 市川琉那
 - 2022UCIトリアスWorld Challenge女子エリート 第12位 市川琉那
 - 個人(文芸)
 - 第76回栃木県芸術祭 短歌部門
 - U25賞 亀井果歩